

石川県立看護大学「グローバルはまなす基金」：ご寄附のお願い

この度の令和6年能登半島地震では自然の驚異をまざまざと見せつけられました。本学も無傷ではいられませんでした。皆様からの温かい励ましとご支援に勇気づけられ、粛々と教育・研究活動が続けることができいております。ここに心からの感謝の意を表します。

このような状況にあっても、看護職は病む人・不安を抱える人の気持ちに寄り添い、家族を理解し、個々の状況に必要な知識や看護技術を医療や福祉環境とのバランスを取りながら提供していく役割を担います。しかしながら、少子高齢化や過疎化の著しい進展、甚大な自然災害等により看護を取り巻く我が国の社会情勢は目まぐるしく変化しています。同時に、新興感染症のパンデミックや紛争等に伴う人の移動など国境を越えた世界情勢の変化も身近なものとして影響を受けるようになってきました。そのような中で、本学でも的確な将来予想のもとに、看護や保健・医療、研究・教育で活躍できる能力を学生・大学院生に賦与したいと考えております。

「グローバルはまなす基金」は、本学の理念の下、地域保健・医療・福祉を担いリードする人材の育成において、学生の修学を支援する目的で、平成28年に当時の石垣和子学長により設立されました。

次世代を担う看護学生には、日本の医療体制を俯瞰的に見る目や、他国の看護職の役割や知識・技術を地域社会のありようととも知って日本をふり返る経験をすることが重要だと考えます。さらに、農山村や過疎地の生活を知り、元々の日本の暮らしに立ち返って現在を理解し、地域社会で暮らす人々の伝統・文化や価値観を推察できることも人間性の涵養においてとても大切です。このように本学では、グローバルな視野をもって考えつつ、目の前のローカルな課題を着実に解決していくことのできる「グローバル」な人材の育成に取り組んでいます。そのために、米国やアジア諸国での国際研修や、能登地域での民泊体験等のフィールド実習などを取り入れた学習プログラムを行っており、今後は一層そのプログラムを拡充していきたいと考えております。

さらに看護職は、そのキャリアにおいて高度実践看護師として高めていく流れが強くなり、希望者も増加しつつあります。本学では、大学院にて4つの専門看護師教育課程を持ち、院生には望みうる最高の教育を提供したいと考え、全国各地に出向かせて学ばせております。また、日本の高度実践看護師の活動はまだ緒についたばかりであり、諸外国の大学院で学ぶ専門職などの活動を見聞することも重要であるとと考えております。

こうした教育の提供には、研修参加費や旅費、滞在費等の追加費用の負担が避けられません。しかし経済的に困難な事情を抱えている学生も多数おります。大学としても支援の努力を重ねておりますが、志ある学生・大学院生が各家庭の経済事情により最高の学習機会を逃すことのないよう、みなさま方の温かいご厚情をお願いするものであります。

今後の石川県立看護大学にご期待いただきますとともに、従前にも増して皆様の格別のご理解とご支援をお願いいたします。

令和6年2月吉日

石川県立看護大学 学長 真田弘美